

【地域活動ノート】

第18回薬局管理栄養士研究会の活動報告

薬局管理栄養士のそれぞれの課題～解決に向けて今日からできること～

南野知子*・小口淳美*・藤田智子*・内山貴雄*・家辺愛子*・東郷直征*・堀由美子*・**
岩田直洋***・君羅好史****・清水純*****・松本明世*****・真野博*****・内田博之*****

活動の概要

薬局管理栄養士研究会（2006年発足、2023年会員化）は、専門職種・業種の枠組みにとらわれず、会員同士の連携と親睦を促進すること、薬局管理栄養士の活動支援や発展および育成に必要な情報収集・発信を行い、地域の栄養ケアを推進し、住民のQOL向上に寄与することを目的としている。本研究会の主事業である第18回薬局管理栄養士研究会は、前年同様に城西大学坂戸キャンパスを配信会場としてオンライン（Zoom）にて開催したので報告する。

キーワード：薬局管理栄養士研究会、管理栄養士、保険薬局、ドラッグストア

第18回薬局管理栄養士研究会は、2023年11月18日（土）13時30分～17時30分、「**薬局管理栄養士のそれぞれの課題～解決に向けて今日からできること～**」を開催テーマとし、情報提供や口頭発表、グループディスカッションを行った。全国から90名の参加者が集まり、盛会のうちに終えた。

プログラムでは、株式会社パル・オネスト 南野知子氏より、薬局管理栄養士の活動内容や課題について情報提供された。また、株式会社杏林堂薬局 内山貴雄氏より、ドラッグストアの管理栄養士の取り組み事例や、ビジョンについて報告いただいた。口頭発表（5題）では、薬局管理栄養士として日頃の取り組みや、薬剤師との連携、活動状況や課題などが報告され、グループディスカッションでもそれらをテーマとして引き続き議論されるなど、今後の管理栄養士の在り方を考える時間となった。

2年後の発足20周年がメモリアルな企画になるよう、薬局・ドラッグストアで活躍する管理栄養士を中心に、薬剤師や関連職種、薬局管理栄養士を目指す学生など、様々な方との情報交換や情報収集、互いの交流の場として、活発な研究会になることを願っている。

第18回薬局管理栄養士研究会の情報提供・口頭発表の内容、アンケート結果は以下のとおりである。

<情報提供>

「薬局管理栄養士の課題と今後の展望」 株式会社パル・オネスト 南野 知子 氏

「ドラッグストア管理栄養士の職域の拡大と今後の展望」 株式会社杏林堂薬局 内山 貴雄 氏

-
- * 薬局管理栄養士研究会世話人
 - ** 活水女子大学健康生活学部食生活健康学科教授
 - *** 城西大学薬学部医療栄養学科助教
 - **** 城西大学薬学部医療栄養学科准教授
 - ***** 城西大学薬学部医療栄養学科教授
 - ***** 城西大学薬学部医療栄養学科非常勤講師

＜口頭発表＞

演題1 調剤薬局で実施するイベントの効果について；株式会社アップルケアネット

演題2 株式会社パル・オネストの薬局管理栄養士活動について－薬剤師の対人業務拡大と管理栄養士との連携強化への取り組み－；株式会社パル・オネスト

演題3 薬剤師と管理栄養士のチームワークとその先へ～成果をあげる薬局管理栄養士を目指して～；株式会社メディカルリンク

演題4 健康サポート薬局として「骨密度測定会」での健康啓発；株式会社メディカルリンク

演題5 かかりつけ薬剤師&管理栄養士の連携の現状と課題；株式会社フォーラル

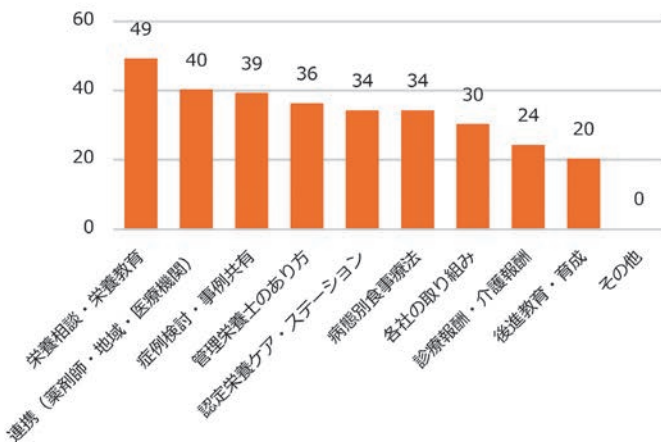
＜アンケート結果（一部抜粋）＞

参加者の最大の関心は栄養相談・栄養教育だった。次に、薬剤師・地域・医療機関との連携、症例検討・事例検討、薬局管理栄養士のあり方、症例検討・事例共有が続き、広範囲にわたる関心が明らかになった。薬局管理栄養士研究会への期待は情報収集・情報交換が最も多く、年次大会参加をコミュニケーションの機会と捉える参加者が多かった。

なお、本アンケート調査は、城西大学「人を対象とする生命科学・医学系研究倫理審査委員会」の承認を受けて実施した（許可番号：2021-08）。

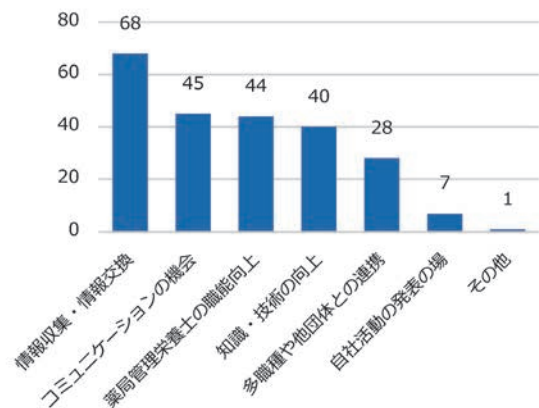
今後の研究会で取り上げてほしいテーマ

（複数回答可 有効回答69件）



本研究会に期待していること

（複数回答可 有効回答69件）



薬局やドラッグストアで働く管理栄養士の活動範囲は徐々に広がりつつある。特に、栄養相談においては対面だけでなくオンラインや特定保健指導を行う企業も増加している。しかしながら、管理栄養士の採用が進む一方で、受け入れ体制が整っていないことが課題となっている。経験の浅い管理栄養士にとっては、情報収集・共有の場が重要である。従って、他社の管理栄養士との交流機会をつくり、日頃の悩みや活動事例など情報交換できることは貴重な機会である。

引き続き、アンケート調査による参加者の意見や希望を収集し、現場に必要とされる情報発信に努め、さらなる職能拡大を目指していく。